

ジョリパット650シリーズ
校倉仕上げ
施工の手引き

平成12年7月作成

アイカ工業株式会社

化成品開発第二部

< 使用材料 >

材 料	商 品 名	概 要	荷 姿	標準施工面積
シーラー (モルタル下地の場合)	ジヨリパットシーラー JS-410	塩化ゴム系 1液型溶剤透明ラー	15 kg石油缶	75~100 m ² /缶
主 材	ジヨリパット650シリーズ 標準色 JP-650 JP-650T (...数字) 特注色 JP-650 (...英字、 ...数字)	アクリル共重合樹脂 水性仕上塗材	20 kg [△] 缶	約7 m ² /缶
骨 材	JF-5 JF-3	寒水石(白竜)5厘 寒水石(白竜)3厘	(25 kg袋入 (25 kg袋入	約32 m ² 約32 m ²)

< 主な施工道具 >

- ・ 金ゴテ
- ・ 校倉専用クシ目ゴテ (JR-71)

< 下地調整 >

下地は、モルタル金ゴテ押さえ(平滑)として下さい。

< 校倉仕上げ施工方法 >

1. シーラー塗布

配 合	JS-410	15kg
塗布量	0.15~0.2kg/m ²	
施工方法	ローラー刷毛又はスプレーガン	

下地に最適なシ-ラ-をご使用ください
3時間以上48時間以内

2. 主材 下塗り

・ジョリパットを無希釈で1.0kg/m²となるよう
金ゴテにて平滑に塗布する。

夏期 4時間以上
冬期 12時間以上
乾燥を確認後、次工程に移って下さい。

3. 主材 配り塗り

配 合	JP-650シ-ズ	20kg
	寒水石 5厘	8kg
	寒水石 3厘	8kg
	清 水	1~1.5ℓ
塗布量	約3.5kg/m ²	
施工道具	金ゴテ 金ゴテにて平滑になるよう材料を配る。 (厚さ3mm程度)	

追いかけ(5分以内)

4. パターン付け

・校倉専用クシ目コテJR-71を横方向にランダムに
引き(図-1 参照) パターンを付ける。

<施工のポイント>

- ・最初に目安となる線を横方向に引く。この線を基準線として、細かいパターン付けを行う。
- ・次にクシ目のジョイント部分が目立たないように、千鳥状に模様を付ける。細かくパターン付けを行うと、パターンつなぎが目立ちにくくなり、バランスのとれた仕上がりになる。(図 - 1)
- ・塗膜表面が乾燥するとネタをひきずり、ネタグソが出やすい為、直射日光の下での施工は避けてください。
- ・クシ目ゴテは、パターン付けを行う進行方向に対して、45度程度傾けてパターン付けを行う。
- ・校倉クシ目ゴテは、常にきれいに保つよう、ウエスなどで余分な材料を除去する。クシ目ゴテに材料が付着したまま、パターン付けを続けると、パターンが汚くなる。

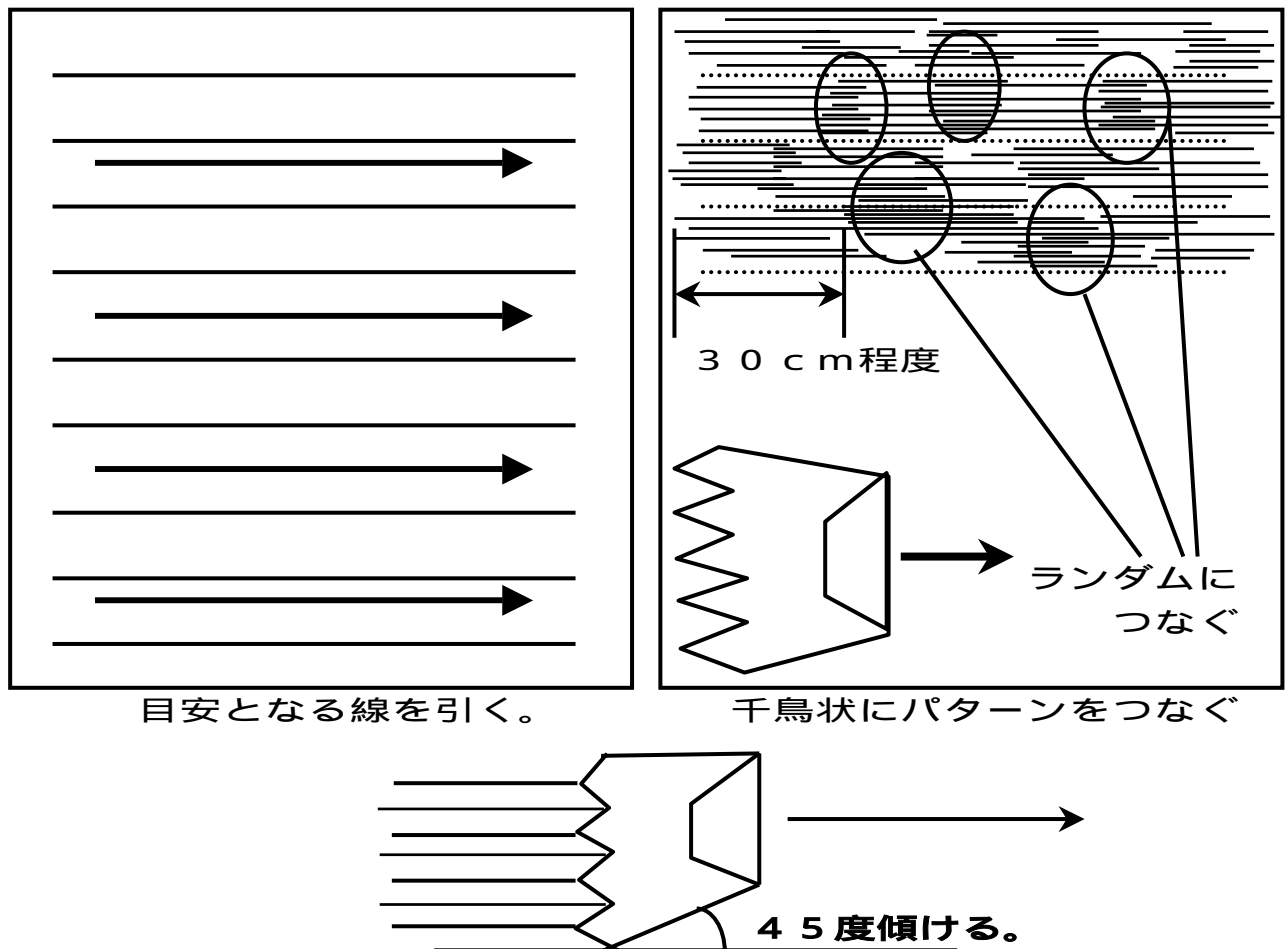


図 - 1

- ・大壁を仕上げる際、作業性をアップする為、大きいクシ目ゴテを作製すると便利です。(図-2、3)

<大型クシ目ゴテの作製方法>

- ・校倉専用クシ目ゴテJR-71(5枚/箱)を2~3枚つなげて、布テープと木で固定します。(図-2)
残ったクシ目ゴテは、細かい部分の施工に使用して下さい。

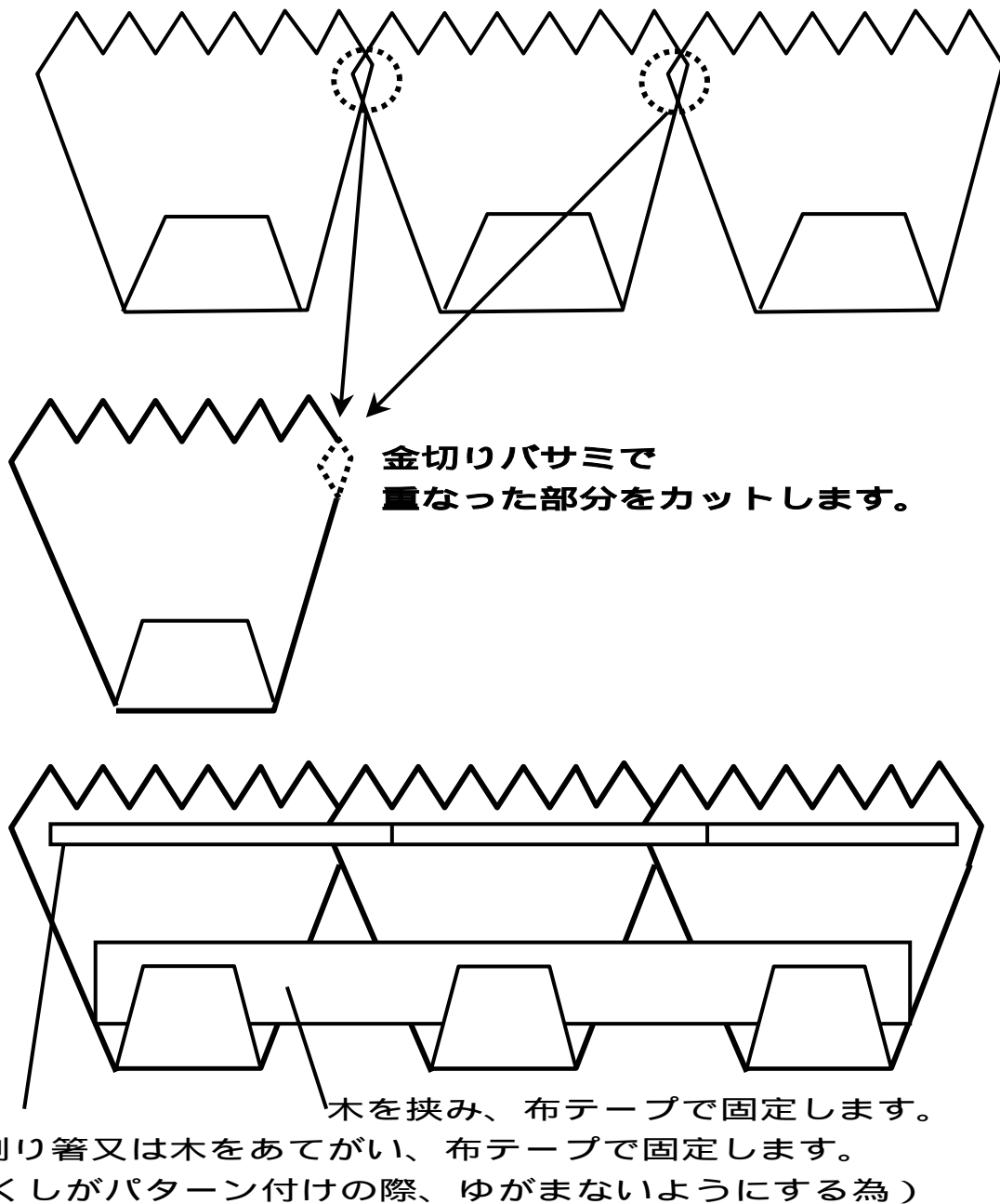
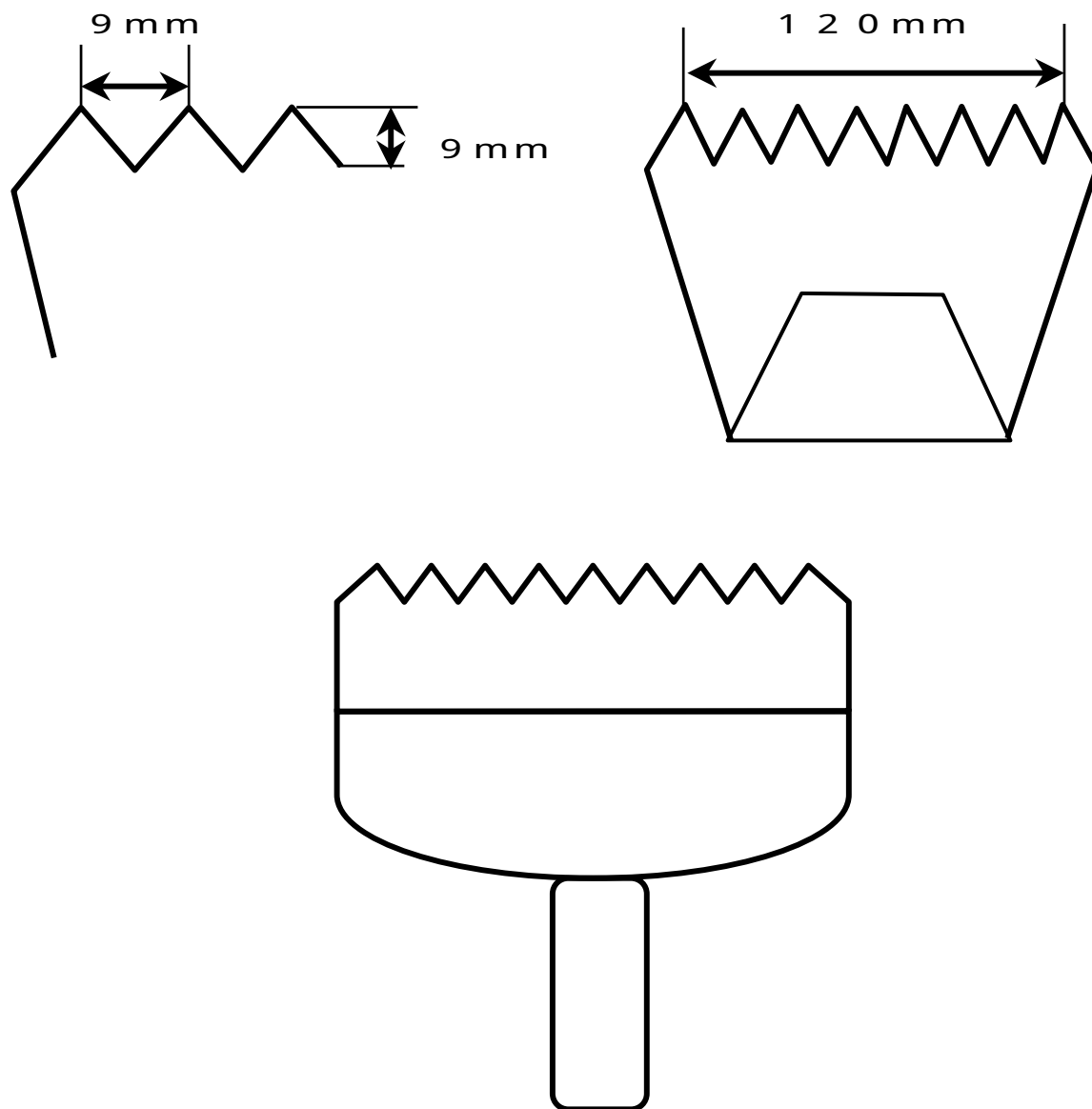


図 - 2

- ・市販のパテベラ（金ベラ）を金切りばさみでカットしても大型クシ目ゴテは作製できません。（図 3）

< 校倉専用クシ目ゴテ JR - 71 の形状 >



- ・校倉専用クシ目ゴテのピッチに合わせて、金切りバサミでカットします。

図 - 3

<注意事項>

- ・ 施工前に必ず試し塗りをを行い、仕上がり、乾燥性を確認して下さい。
- ・ 表面乾燥が比較的速いため、塗り継ぎ時間に注意してください。
(大面積では作業人工や化粧目地による分割を検討して下さい。)
- ・ 同一面は連続して施工して下さい。
(気温・湿度・風等により、色調が異なることがあります。)
- ・ パターンを付ける際、ラインが蛇行したり斜めに下がったりしないよう注意して下さい。
- ・ 材料の塊(クズ)が壁面に残らないよう、クシ目ゴテに付着した材料は、コテ板やウエスなどでかき取り、きれいにして下さい。

校倉のパターンを真っ直ぐ、きれいにつなぐことは、気象条件、足場、施工人工、施工技術などの関係で困難です。詳しくは、各営業店所に御相談下さい。

以 上